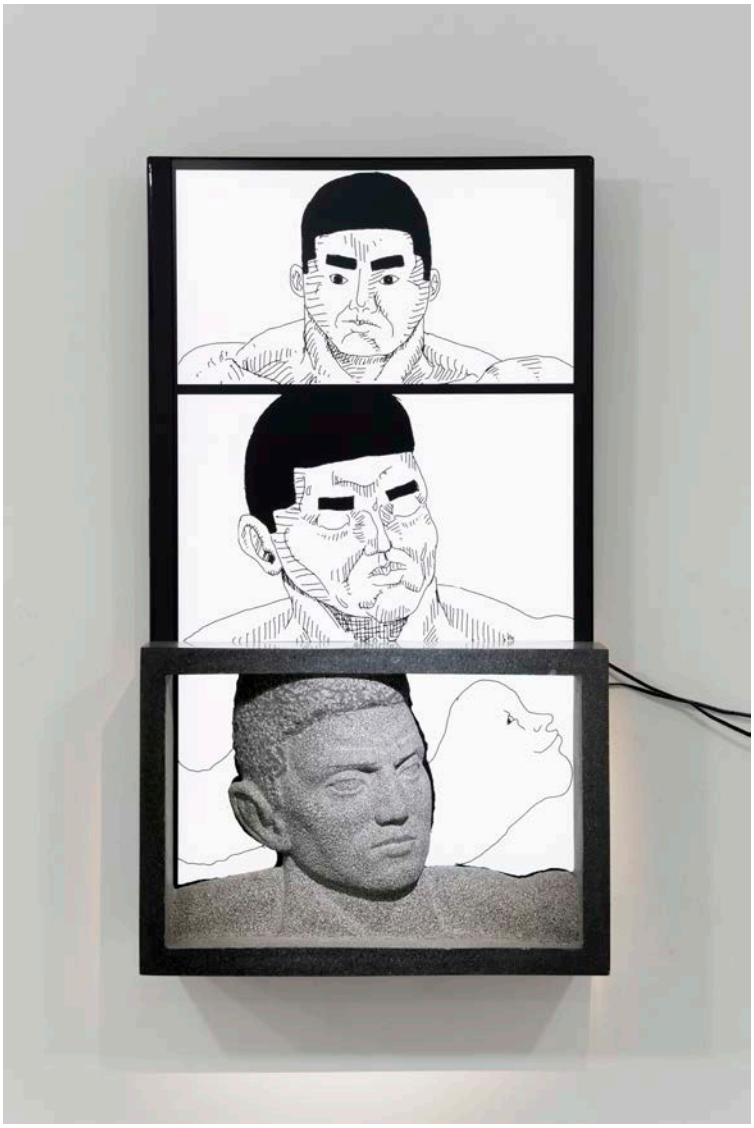
小笠原　周

Shu Ogasawara

solo exhibition
「剛体術」

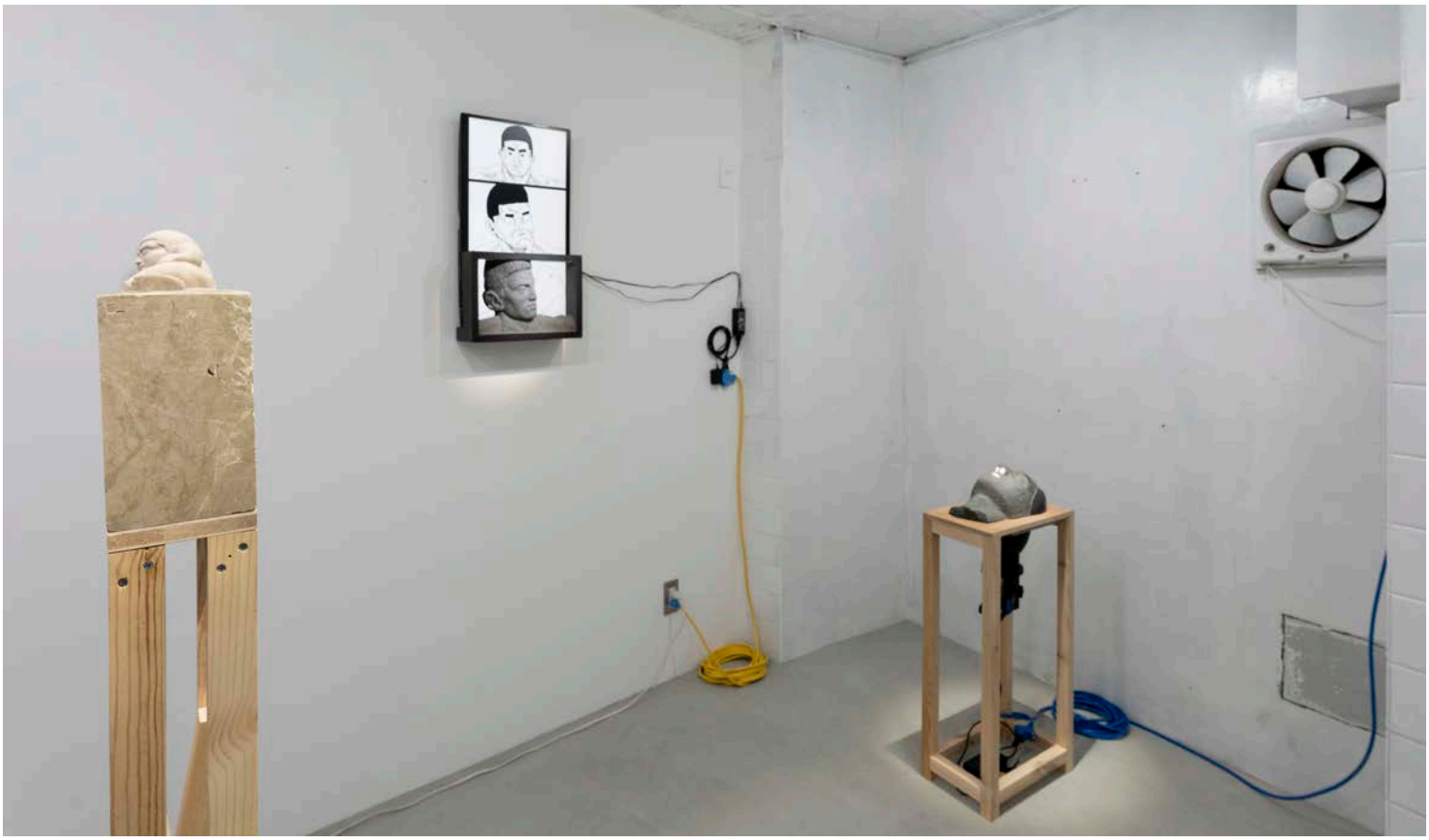
no.1《二度見》
no.2《マヌル》
no.3《浮涅槃》
no.4《光あれ》
no.5《優しい彫刻 2022》

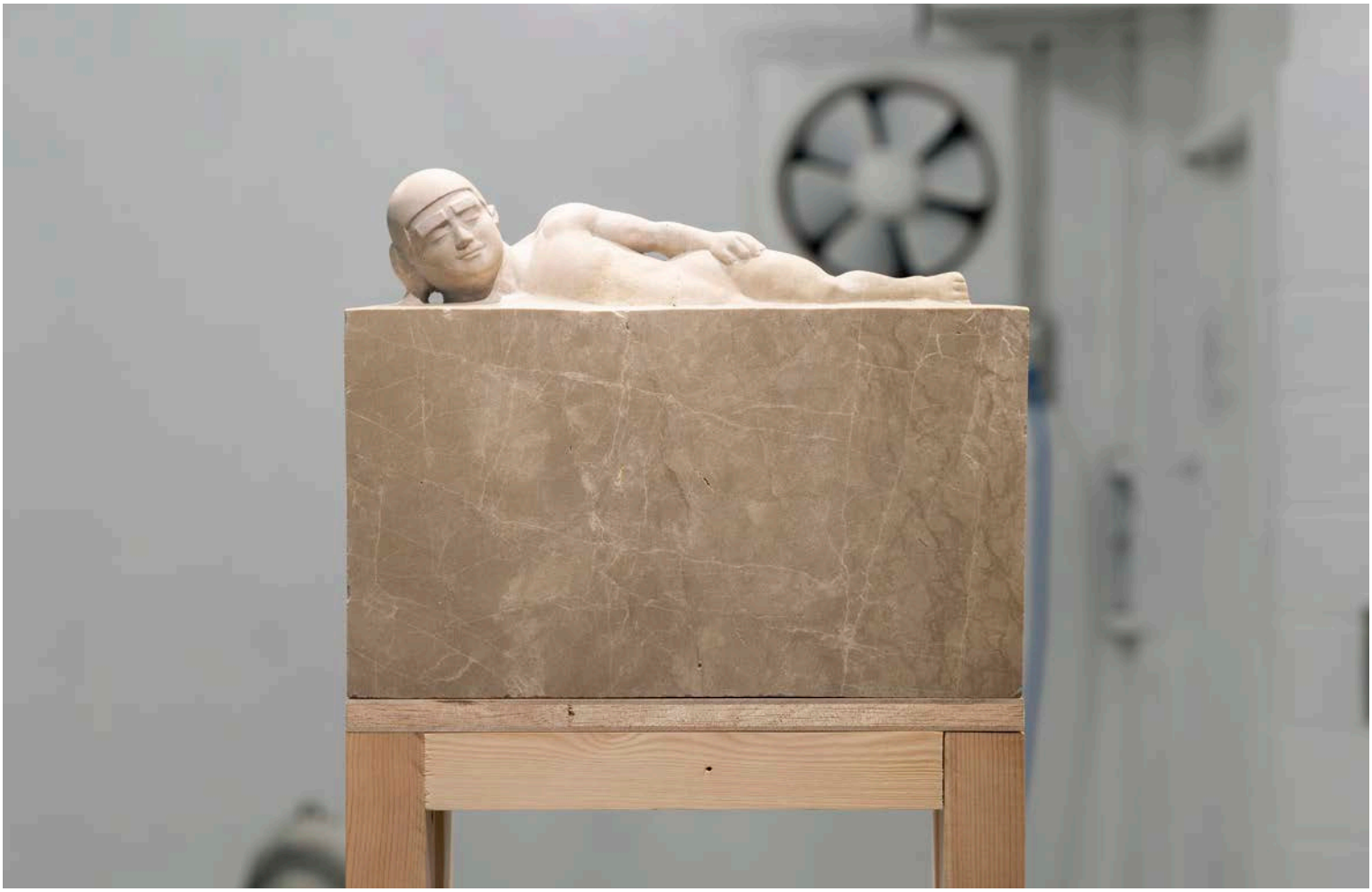
素材：白御影石、黒御影石、石、アニメーション、ライト、銅版
期間：2022.5.8 - 5.22
会場：hop ART GALLERY/ 大阪



no.1

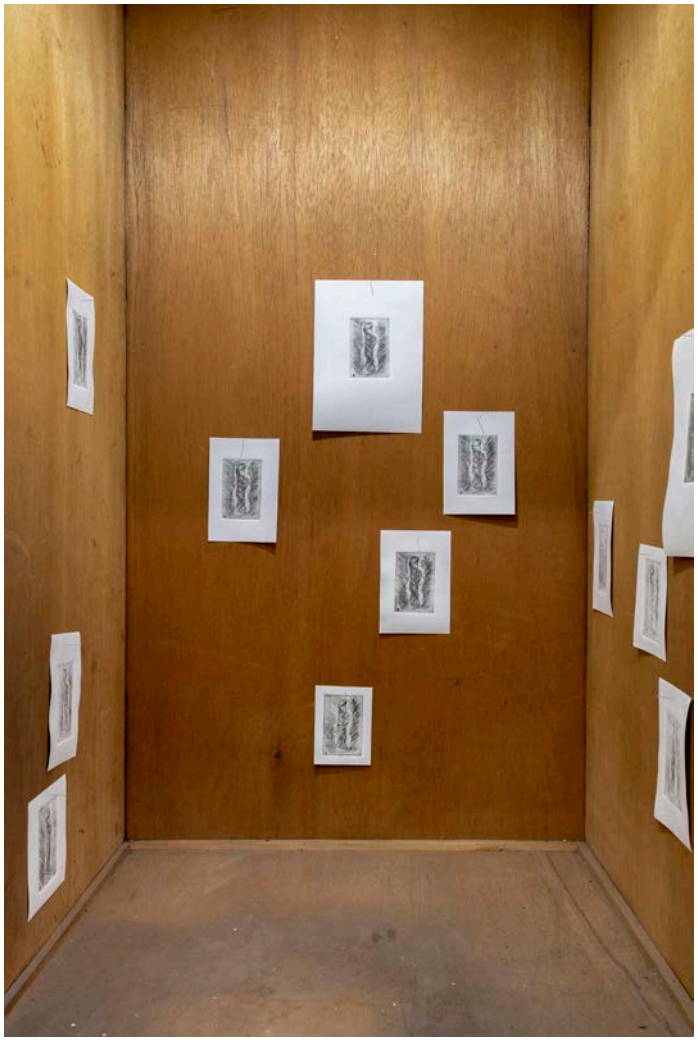
no.2





no.3

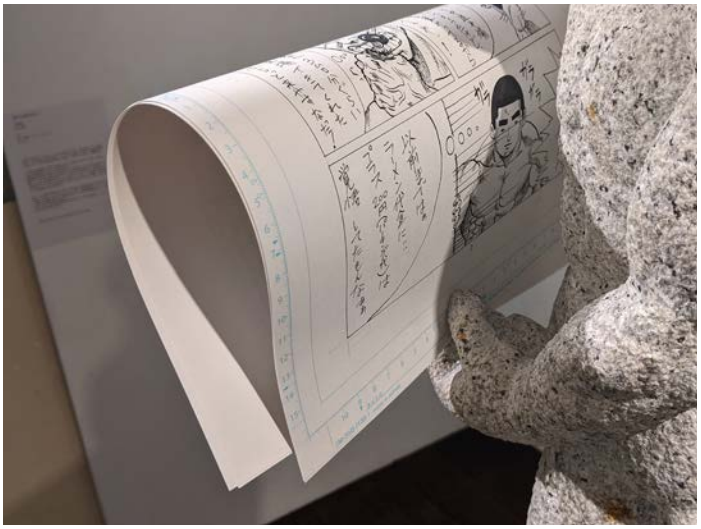
no.4



no.5

group exhibition
「文字からの世界線」

《優しい彫刻》
素材：白御影石、マンガ、
　　バーコードバトラーII
期間：2021.12.17 - 12.26
会場：KUNST ARZT/ 京都
撮影：しまだそう



EPOCH
L-POWER
L-BATTLE
BARCODE BATTLER II

group exhibition

「余の光 / Light of My World」

《顔と風景》

素材：石、インク

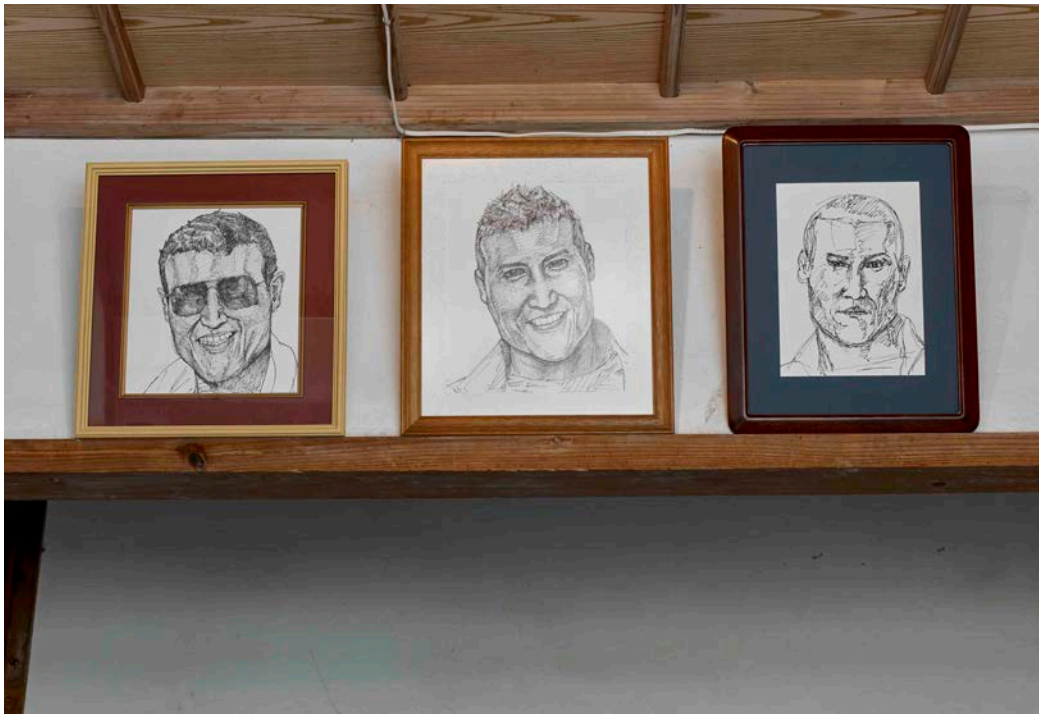
期間：2021.10.8 - 11.7

会場：旧銀鈴ビル / 京都

主催：福知山イル未来と実行委員会

　　京都文化力プロジェクト実行委員会

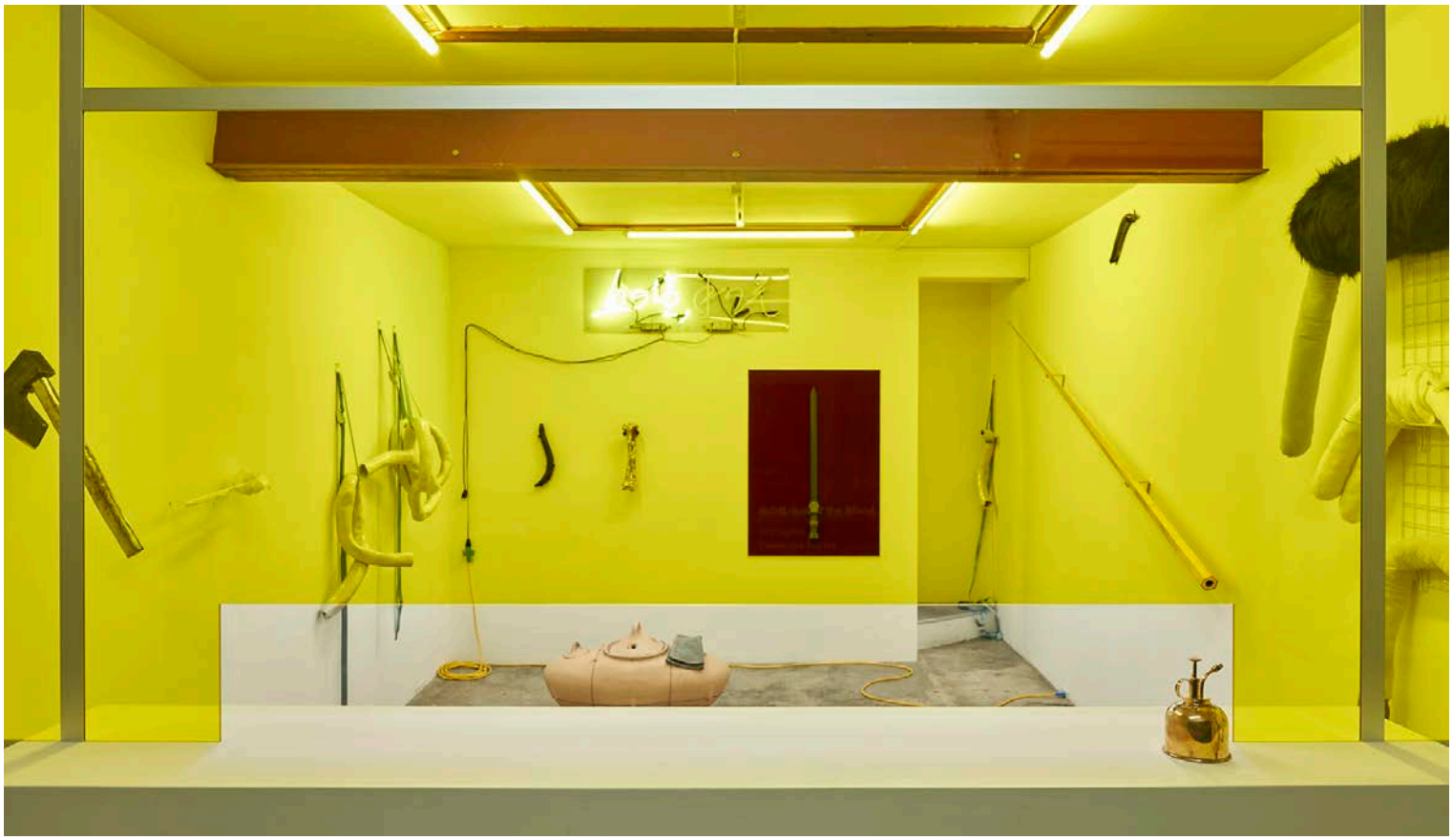
group exhibition
「対馬アートファンタジア 2020-21」



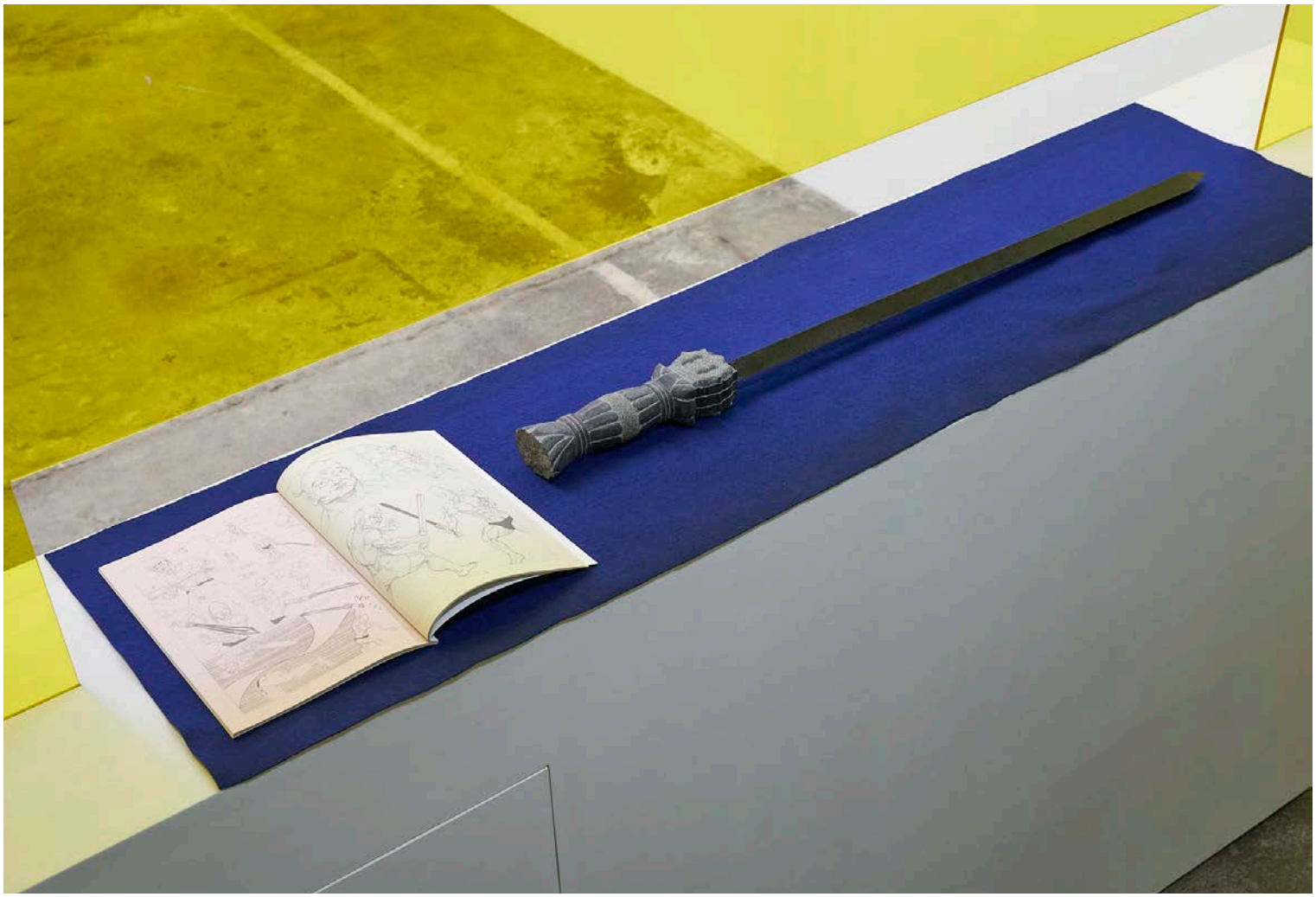
《対馬の風景》
素材：石、アニメーション、インク
期間：2021.9.13 -11.3
会場：対馬各所 / 長崎
主催：対馬アートファンタジア実行委員会
撮影：山本糾

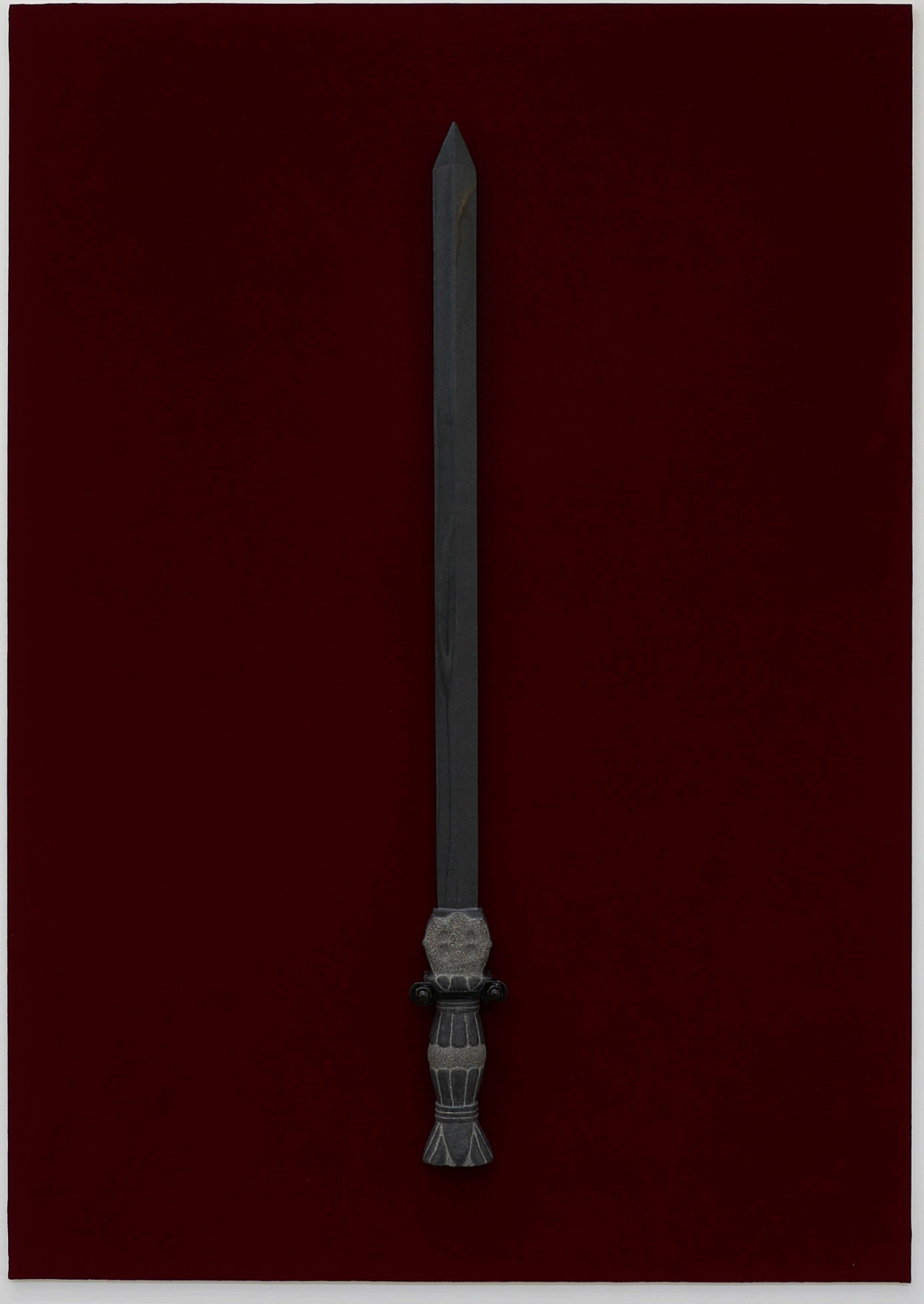
和

group exhibition
「血の塩」



《HOKEN》
素材：黒御影石、マンガ
期間：2021.8.21 - 9.11
会場：LEE SAYA ／東京
撮影：堀蓮太郎



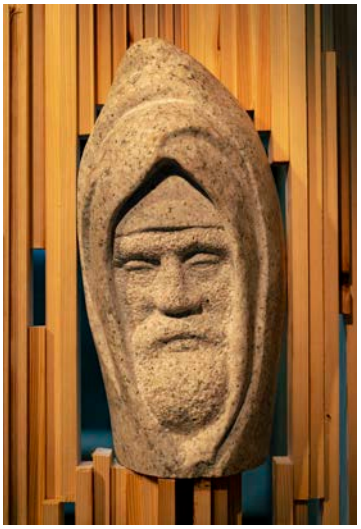


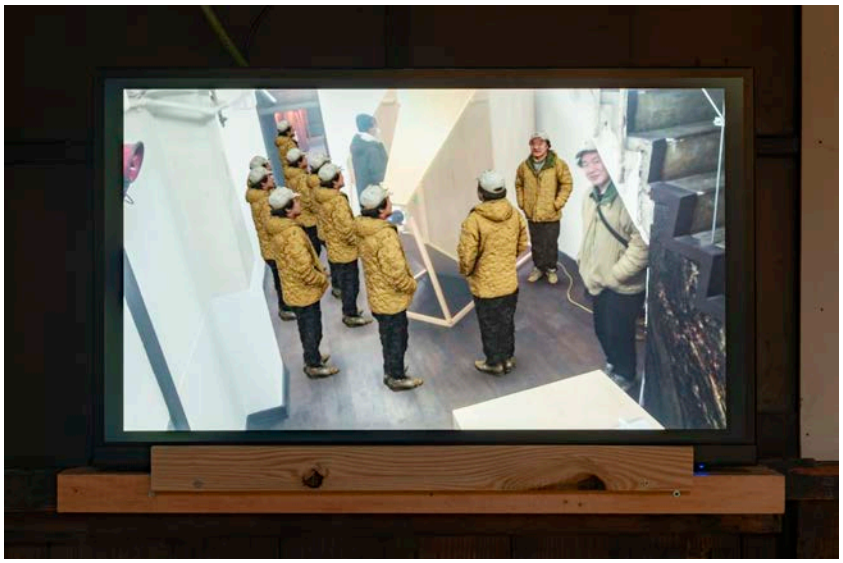
solo exhibition
「鈍牛 2021」

no.1

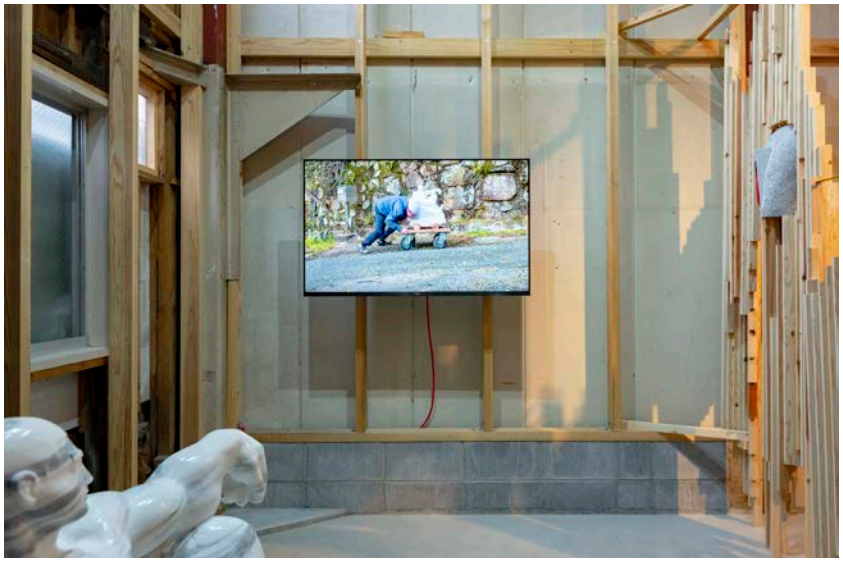
no.2

no.3


no.4

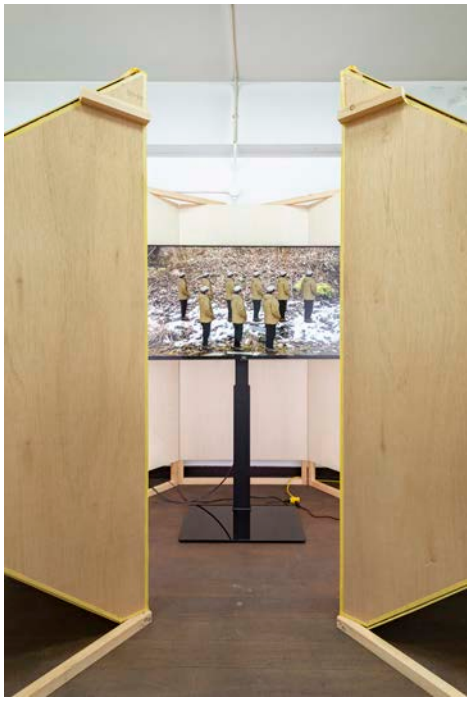


no.5



no.6

no.7



no.1《モーゼの髭》石、トンカチ
no.2《奴隷の髭》石、水平器
no.3《ケンタウロスの戦いの髭》大理石、コンベックス
no.4《ピエタの髭》御影石、ペンチ
no.5《VOU 密》リアルタイム映像、AR
no.6《ドライビングテクニック（鈍牛 Ver.）》大理石、映像、AR
no.7《3D スキャンブース》ミクストメディア、映像

期間：2021.1.9 - 31
会場：VOU

小笠原周個展「鈍牛 2021」展覧会レビュー 1

「多分、多分、多分、漫画が足りてない。」黒田大スケ

「最大の危機は、目標が高すぎて失敗することではなく、低すぎる目標を達成することだ。」本当か嘘か知らないが、ミケランジェロがそう言ったらしい。「ミケランジェロが足りない」と嘯く小笠原の展覧会について書くために色々と調べる中で出てきた言葉だ。この言葉を鵜呑みにすれば、人類史上最高峰の芸術家が自分に「足りない」と考える小笠原の目標は高すぎるほど高く、たとえ結果が目標に果てしなく及ばなくとも最大の危機は訪れていないと言えるだろう。だが、小笠原は小さな危機を抱えているようだ。

「鈍牛２０２１」と題された展覧会は小笠原の抱える小さい危機を纏っていた。その小さな危機は多分、小笠原が愛してやまない少年漫画風に言えば、主人公が大きな戦いを終えた後に新たな試練が訪れるまでの何もない時間、あるいはタスクが与えられないキャラクター達のやり場のない演技のようなもので、漫画のコマとコマの間にある空白に押し込められた未然の物語とも言えるものだ。捉えどころがないと言う意味ではどんな敵よりも手強い無限の空白であり、それに出会ってしまったら、と考えると恐ろしいが、そんな時はこう言うのだ。「ミケランジェロが足りない」おそらくこんな感じで小笠原はミケランジェロを空白に詰め込んだ。そうして作られた作品は、ミケランジェロのそれに似たものではあったが、背中に道具を埋め込まれ、小笠原の手癖と空白の痕がついた紛れもない小笠原の作品になっていた。そこではミケランジェロは溶けたようになって、逞しい肉体もマッスもムーブマンも小笠原の漫画の線に溶け込んでいた。３D や AR の試みも結局のところ彫刻を遠ざけ漫画化していた。空白はミケランジェロをも飲み込んでしまって展覧会の隅々に散らばっていたように思われた。ところで、空白と思われたそれは、多分、ストーリーを待つ未完の漫画のコマなのかもしれない。そうであれば、漫画家が筆を取れば解決するはずだ。

これまで小笠原は自身の描いた漫画をもとに石の彫刻作品を制作してきた。職人的でもなくアカデミックでもない石の彫刻家は日本において珍しく、その作品も非常にユニークなものだ。これは多分、誇っていい。石の加工の難しさを無視して無理やり漫画の絵をそのまま彫刻にしたような作品は、手技にまみれた近代的なアカデミズム彫刻に溺れた者には想像もつかないものだ。それは作者のリアリティと独特の技術に支えられたもので、いにしえの石板のレリーフのようにイマジネーションをダイレクトに表現している。その造形はユニークで多くの可能性を持っている。そこにわざわざ様式的な彫刻を足していくのは野暮だろう。もっと自信を持った方がいい。足りないのはミケランジェロなんかではなく、多分、イマジネーションの根幹の部分。彫刻の素になるもの。あえて言えば、彼が一番足りていると思っている漫画なのではないだろうか。もう一度、漫画の強度をパンチ以外で上げてみてはどうだろうか。不安とも言い換えられる空白を乗り越えるには、多分、漫画が必要だ。

黒田大スケ
1982 年京都府生まれ。2013 年広島市立大学大学院総合造形芸術専攻（彫刻）修了。橋本平八「石に就て」の研究で博士号取得。2019 年文化庁新進芸術家海外研修制度で渡米。帰国後、関西を中心に活動している。歴史、環境、身体の間にある「幽霊」のように目に見えないが認識されているものをテーマに作品を制作している。最近の展覧会に「本のキリヌキ」（瑞雲庵、2020）、「ギャラリートラック」（京都市街地、2020）等がある。

「鈍牛は進む」勝冶真美

筋肉隆々の体躯に幼い少年顔――小笠原周のシンボルともなっているキャラクターだが、少しばかり苦手に思っていたことを最初に告白しておかなければならない。小笠原が度々参照する 90 年代コミックの無骨なヒーロー像（へのコンプレックス）は、わたしが女性だからなのかは分からないが、これまで自分の中で手がかりが見つけられずにいた。ただし小笠原の作品はその代表的シリーズに留まらず近年多様な展開も見せており、尼崎で開催された個展「小笠原周 凱旋 EXHIBITION」での、尼崎の歴史を取材し美術史にも接続させながら様々モチーフを掘り出したレリーフ作品や、粘土の胸像を拳型の大理石で殴って凹みをつくることで重さと運動エネルギーを可視化する試みなど、彫刻そのものについて、彫刻の可能性について様々なアプローチを試みている。

話を本展に移そう。本展「鈍牛 2021」は、本人のステートメントによると「これまで当たり前のように近くに転がっていたミケランジェロや、彫刻における前後問題、重さ問題、さらにはコロナ禍における三密問題などを扱ってみる」展示だとある。会場は大きく三つの構成に分かれており、会場の手前から、AR（拡張現実）による映像インスタレーション、ミケランジェロ彫刻を模刻した作品と三密を扱った映像､最奥には車輪のついた彫刻像とそれを用いた映像作品となっており､全体に通底するのは「重さ」の感覚だ。これまでも小笠原が意識的に扱ってきた「重さ問題」が、映像や AR 技術を用いることによって、よりダイナミックに表象されている。

《ドライビングテクニック（鈍牛 Ver.)》は、車輪が取り付けられた大理石像と、それを小笠原自らが､拠点とする山中スープレックス内を押して動かしていく様子を撮影した映像からなる。おそらく数百キロはある彫刻を苦悶の表情で押していく中、AR で映像内に出現したデジタル像は重さを全く感じさせず猛スピードで横切っていく。小笠原の行為に気づいていない周りの人の足取りも、木枯らしでハラハラ舞う落ち葉も軽く、小笠原だけが重い。

一方の新作の映像インスタレーション《3D スキャンブース》では、軽さに焦点があたっている。ミケランジェロ彫刻を模刻したいくつかの作品が AR で合成されて野外に配置される映像には、重力のあるオブジェクトは登場しない。表面をスキャンすることで取り込まれた彫刻像は背面のデータが意図的に取り払われており、カメラが後ろに回り込むと正面の裏側があらわになる不自然さを呈する。厚みさえ持ちえない不完全なそれらの彫刻は、重さが徹底的に排除されている。同じくスキャンされ映像に登場する小笠原自身は逆に完全体であることをアピールするかのようにクルクルと回ったり、重量の代わりに密度で主張するかのように大量に複製されたりしているのも興味深い。本作での唯一の重さといえば、タイトルの通り制作過程で使われたであろうスキャンブースの存在で、モノやヒトが現実世界に重量をもって存在することを想像させる。

《3D スキャンブース》の映像に登場するデジタル彫刻像のデータ元となった彫刻も展示されている。《モーゼの髭》､《奴隷の髭》､《ケンタウロスの戦いの髭》､《ピエタの髭》と題されたそれらミケランジェロの彫刻作品からの模刻は、本人のステートメントにあるように画集から模刻したがために背面がない。正面の彫りの表情やテクスチャーとは対照的につるっとした石の切断面のままだ。彫りの痕跡のかわりに、メジャーやトンカチといった工具が埋め込まれている。天才芸術家ミケランジェロの裏側に埋め込むには一見不釣合いなごく日常的な工具は、小笠原が感じるミケランジェロとの遠さだろうか。

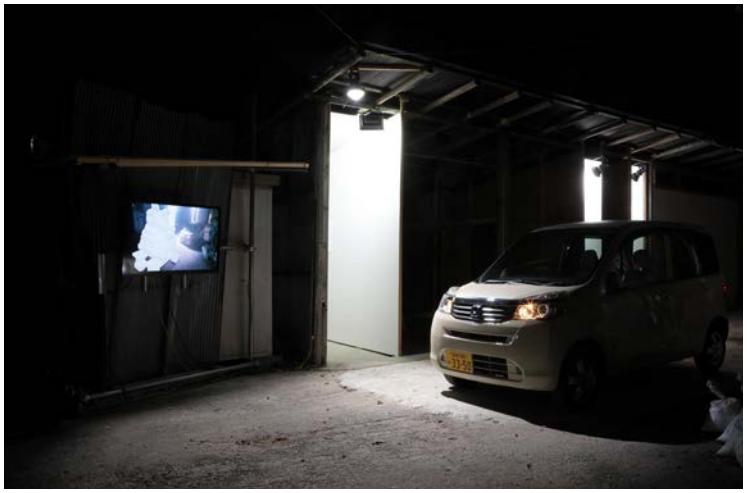
小笠原が扱っている重さとは、彫刻そのものの重さではなくそれに対峙する人間＝小笠原自身の重さのことではないかと考えてみる。長大な彫刻史との、作家としての日々の苦心との、ヒーローコミックのような強さへの羨望との、さまざまな自己との葛藤を、まさに目の前にある重くて硬い石との格闘に投影することで、自身が名付けるところの「鈍牛」のように、その重さを動くエネルギーに変えている。

勝冶真美（京都芸術センタープログラムディレクター）
1982 年広島市生まれ。京都芸術センタープログラムディレクター。広島市立大学国際学部卒業。京都芸術センターアートコーディネーター、公益財団法人有斐斎弘道館学芸員を経て、現職。アーティスト・イン・レジデンスを中心に、アーティストの創作プロセスに興味を持つ。企画した主な展覧会に「影を射す光－三嶽伊紗＋守屋友樹」（京都芸術センター、2020 年)、「The Instrument Builders Project Kyoto: Circulating Echo」（共同企画、京都芸術センター、2018 年）ほか。

※黒田、勝冶、両氏のレビューは 2021.1/29 より配布資料として公開された

group exhibition
ドライブイン展覧会「類比の鏡／ The Analogical Mirrors」

《ドライビングテクニック》
素材：大理石、映像、AR
期間：2020.11.6 - 12.6
会場：山中 suplex



Art Fair
「「OBJECT」

《阿吽像と彫刻群》2020、PLA 樹脂、大理石
《首像》2020、大理石
素材：PLA 樹脂、大理石
期間：2020.8.14 - 30
会場：HOTEL ANTEROOM KYOTO Gallery9.5

《無題（上半身）》2020
素材：大理石

《無題（右手と顔）》2020
素材：大理石

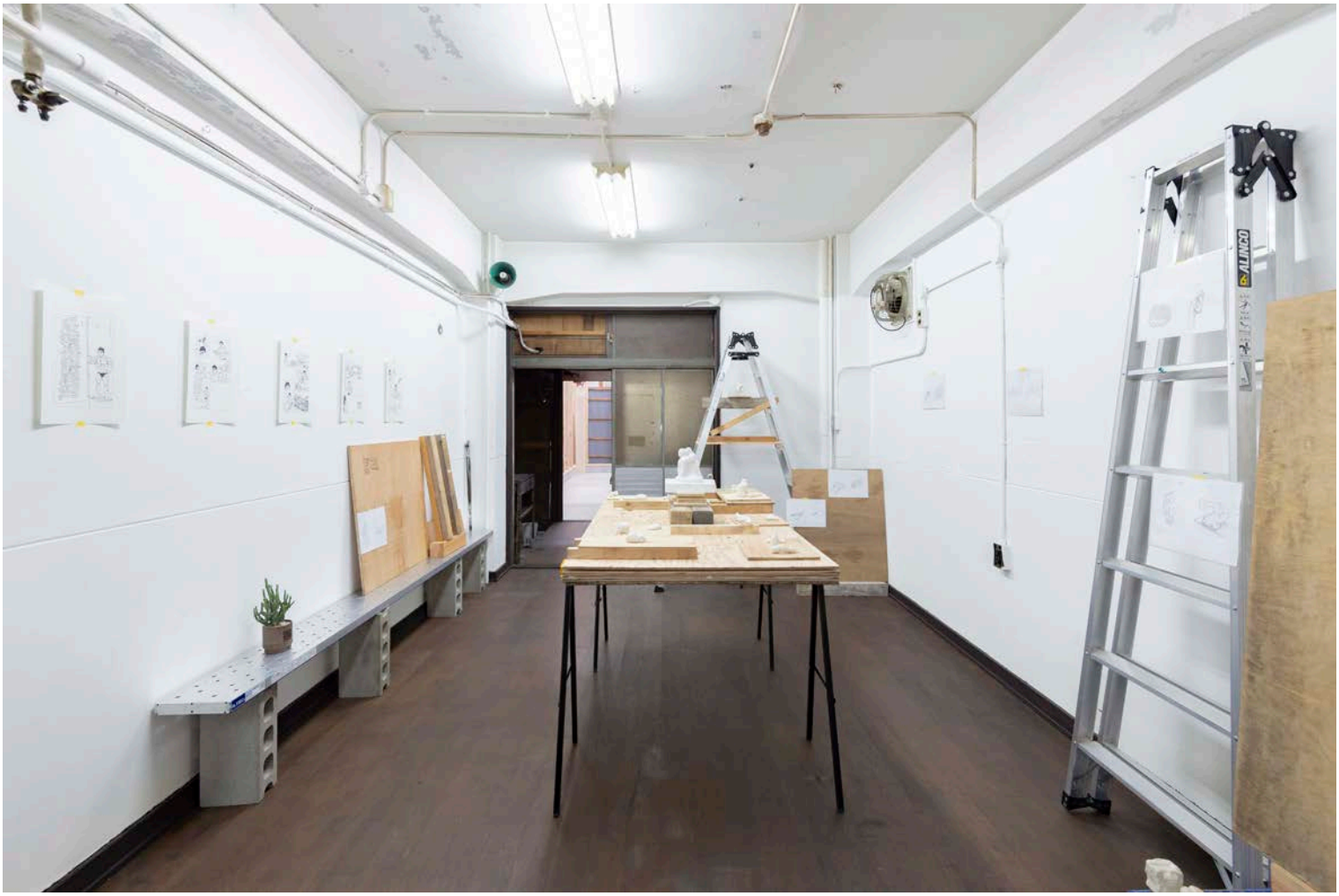
《<アサンブラージュ：裸の男と昼>のオマージュ》2020
素材：大理石

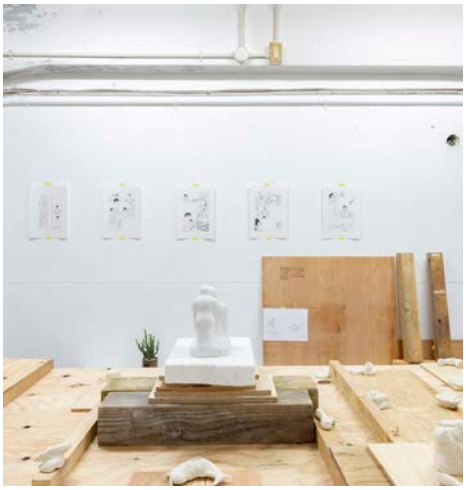
solo exhibition
「Assemblage」

no.1《アサンブラージュ：裸の男たちと伝説》2020
no.2《<アサンブラージュ：裸の男と昼>のオマージュ》2020

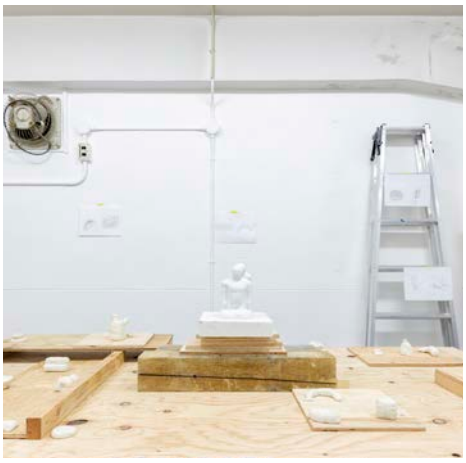
素材：大理石、発泡スチロール
期間：2020.1.11 - 2.2
会場：VOU

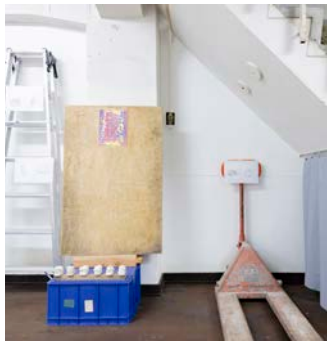
no.1

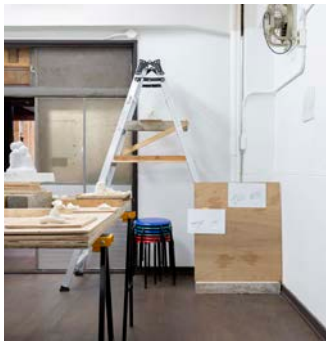




no.2







solo exhibition

「小笠原周凱旋 EXHIBITION 尼崎の伝説の彫刻」

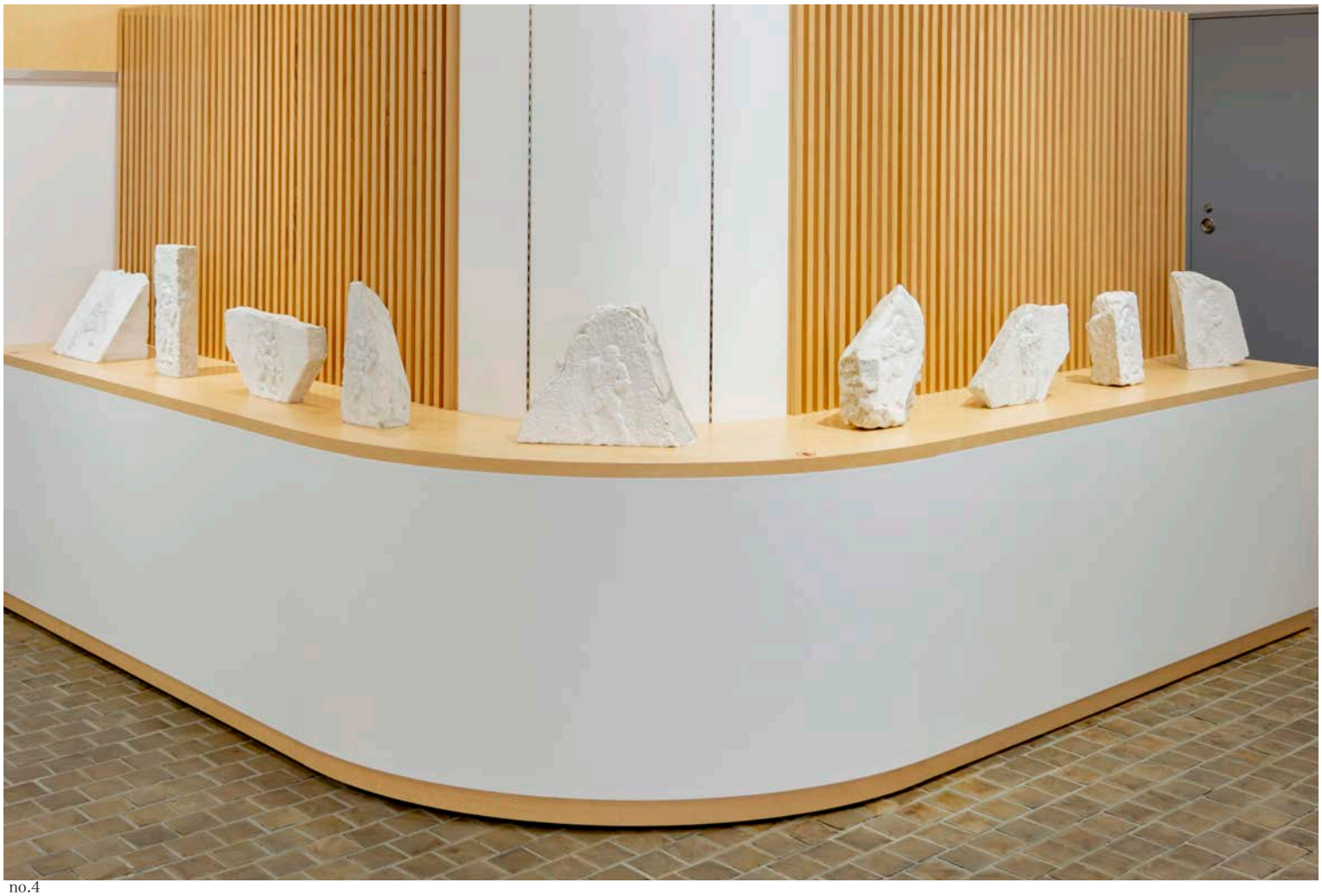
no.1《伝説の彫刻》2019
no.2《Body building》2018
no.3《fighting sculpture》2018
no.4《street fight rerief》2017
no.5《SUPLEX》2019 京都信用金庫 蔵
no.6《the punk》2019
no.7《hard impact》2019

素材：大理石、トラバーチン、黒御影石、発泡スチロール、木材、ドローイング、映像
期間：2019.11.23 - 12.25
会場：尼崎城址公園、尼崎観光案内所

no.1

no.2

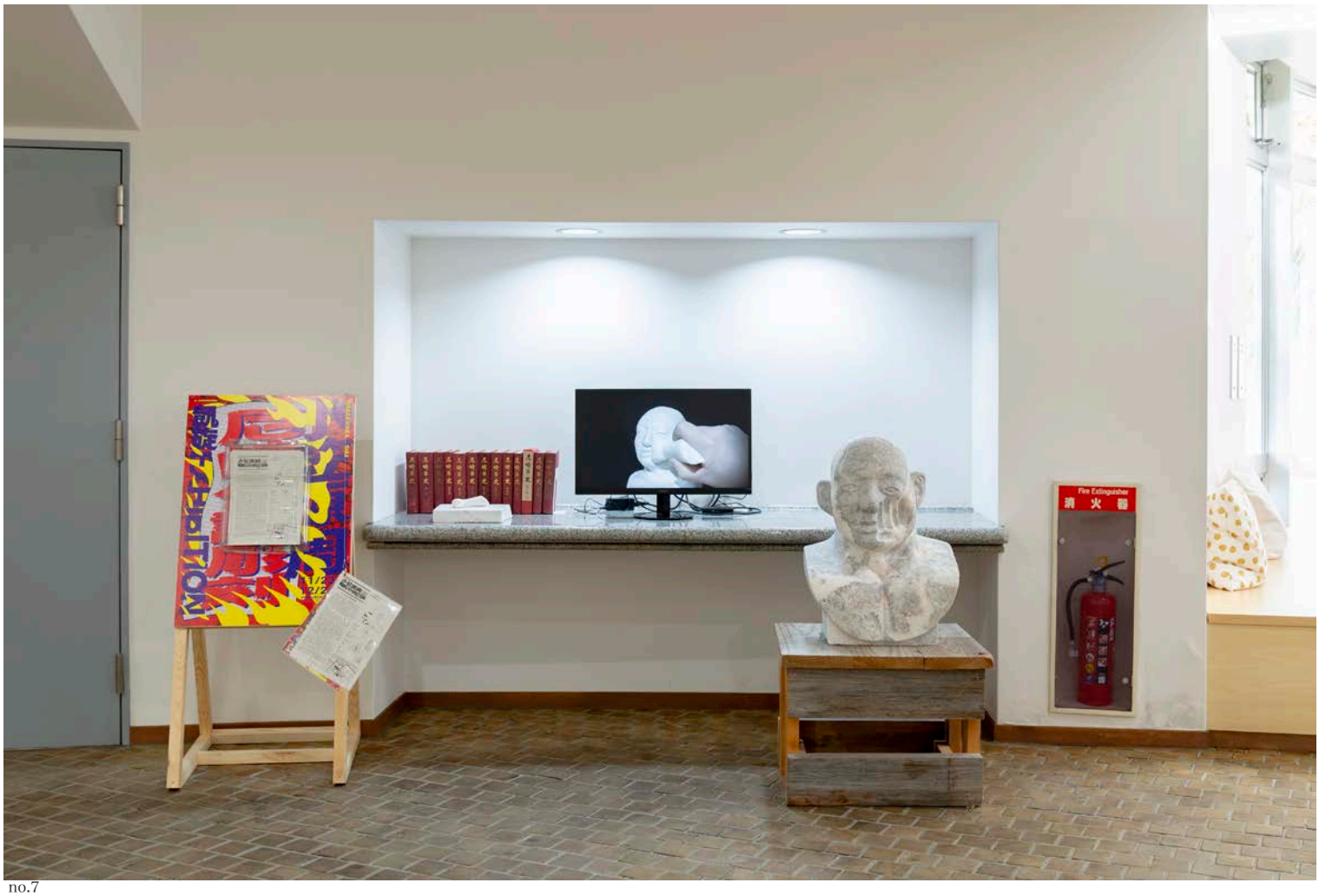
no.3



no.4

no.5

no.6



no.7

group exhibition

「山中 suplex のみんなと尼崎にいるあなた」

期間：2019.10.12 - 11.24

会場：あまらぶアートラボ

A-Lab Exhibition Vol.20
Show and Tell: The Artists of Yamanaka Suplex and You
山中スープレックスのみんなと
尼崎にいるあなた

workshop/group exhibition
「二つの部屋三つのケース」

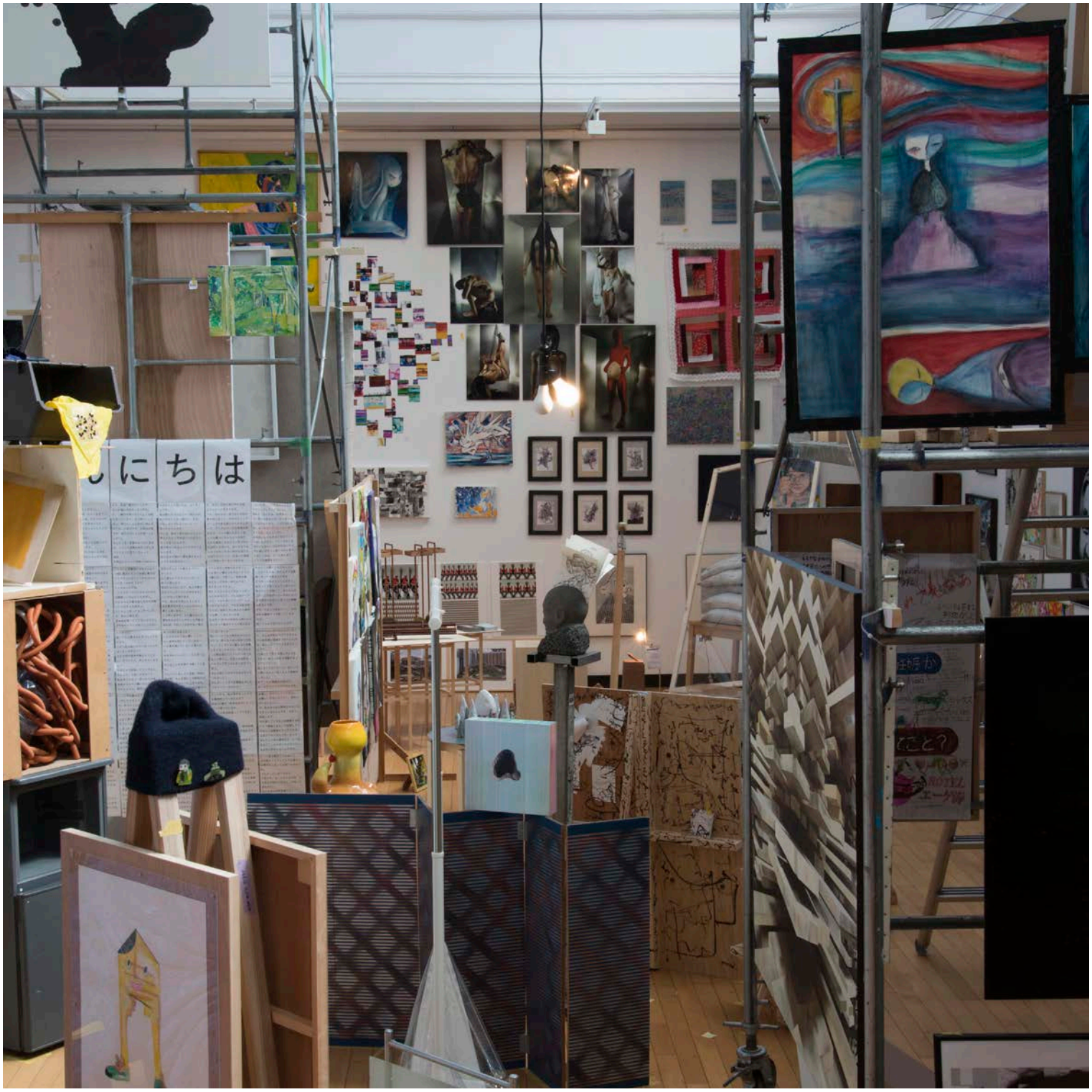
期間：2019.9.7 - 9.16
会場：京都芸術センター

KIRIN

group exhibition
「かみこあにプロジェクト 2019」

《NEXT 碑》2019
素材：男鹿石
期間：2019.8.10 - 9.8
会場：旧沖田面小学校　八木沢集落

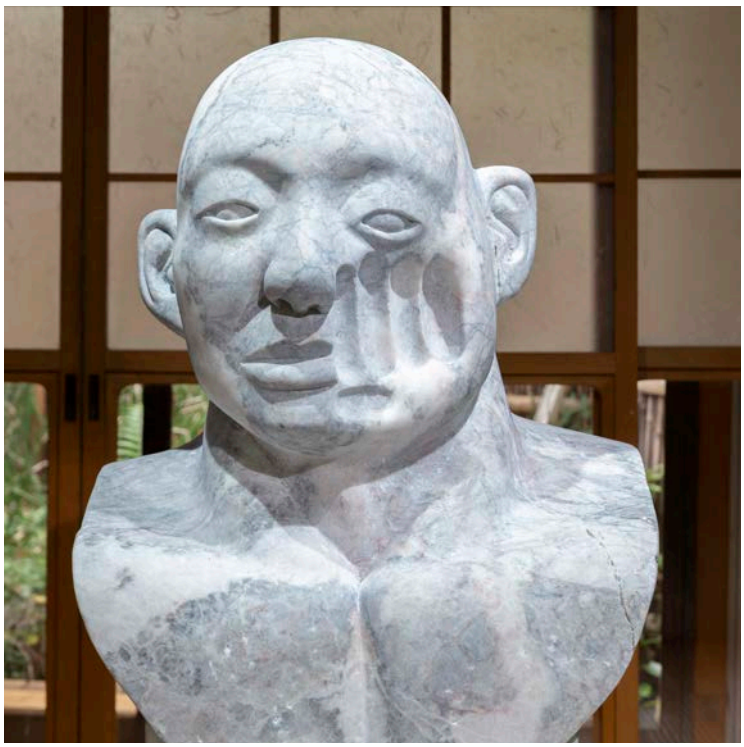
group exhibition
「Tokyo Independent2019」



《the punk》2019
素材：黒御影石、ドローイング
期間：2019.4.18 - 5.5
会場：東京藝術大学大学美術館　陳列館１・２階

suplex

solo exhibition
「Hard Impact」



no.1

no.2

no.1《hard impact》2019
no.2《hard right》
no.3《impact time》
素材：大理石、映像（23 分）
期間：2019.1.4 - 1.15
会場：vou

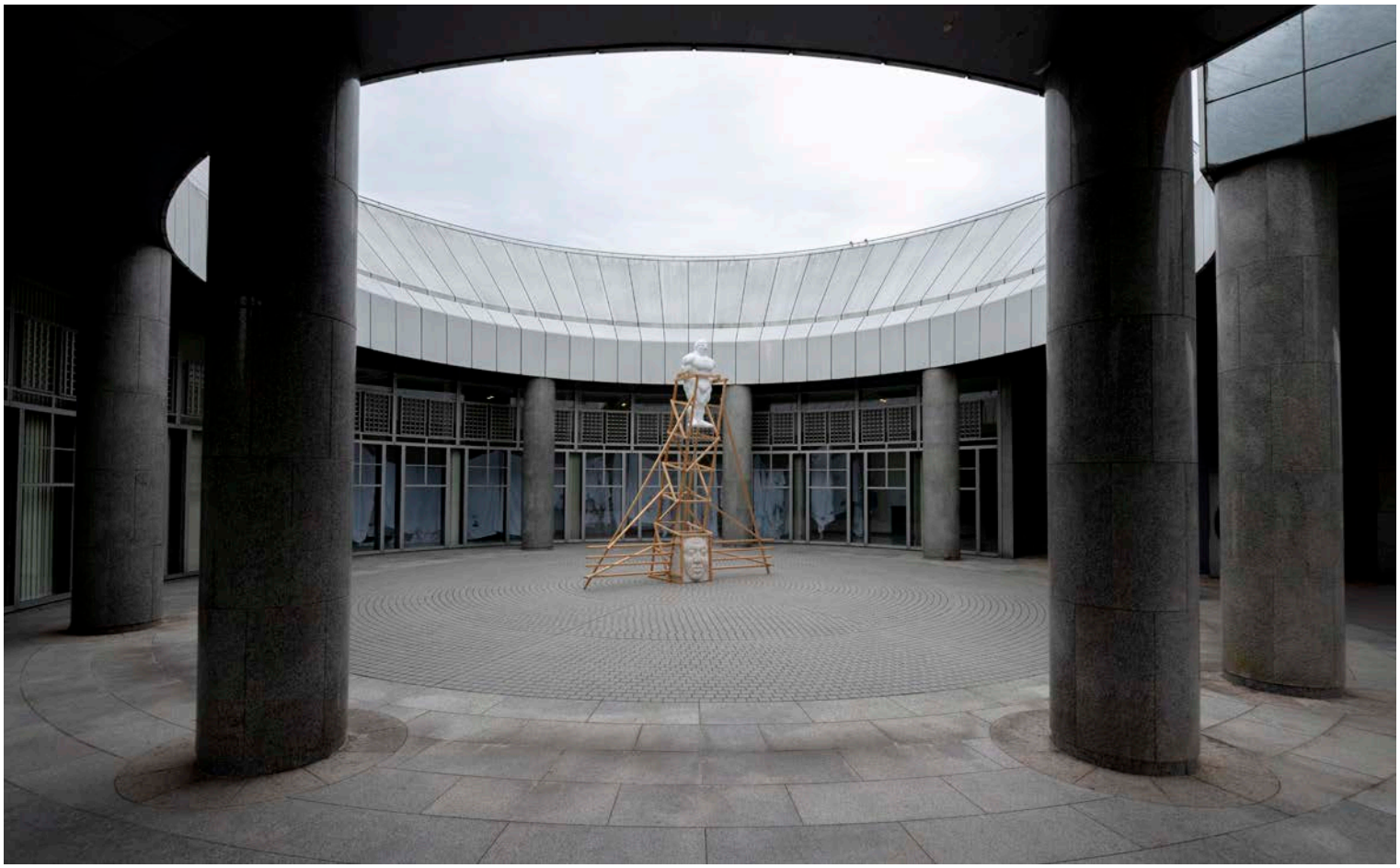
no.3

group exhibition
「チョウコク論」

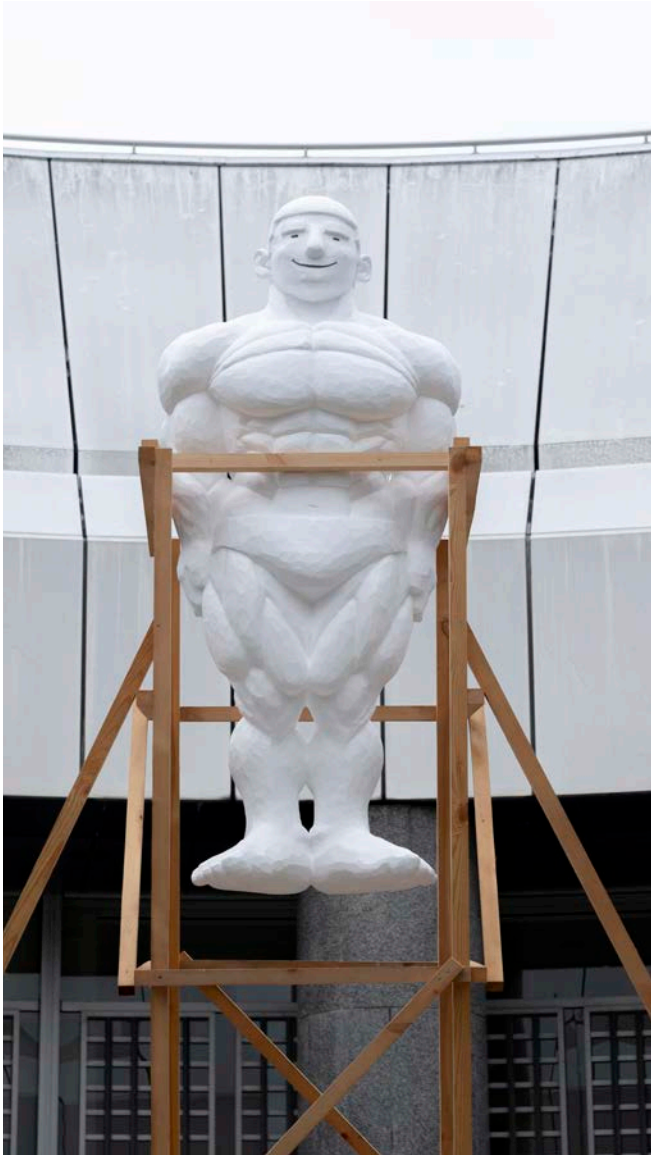
《彫刻家》2018
《アブドミナル＆サイ》
《ラ・パンセ sculpture》
《行脚 sculpture》
《upright sculpture》
《鯛蕎麦裏表浮彫》
素材：大理石、木材、
　　発泡スチロール、マンガ (34 枚)
期間：2018.11.6 - 11.16
会場：Finch Arts

木彫七十年
彫刻

group exhibition
「ゲンビどこでも企画公募 2018 展」



《Body building》2018
素材：トラバーチン、木材、発泡スチロール
期間：2018.11.10-11.25
会場：広島市現代美術館



《ラ・パンセ sculpture》2018
素材：大理石

《行脚 sculpture》2018
素材：大理石
会場：starbucks coffee 京都 BAL 店 常設

solo exhibition
「Preview -Competition Challenge-」

《原画 sculpture- クロスカウンター -》2018
素材：大理石、油性ペン
会場：山中 suplex

group exhibition
「棒に贈」

《ZOU MODE》2018
素材：大理石
期間：2018.4.27 - 5.8
会場：VOU

group exhibition
「アーツ・チャレンジ 2018」

no.1-8《fighting sculpture》2018
素材：大理石、マンガ
期間：2018.2.14 - 2018.2.25
会場：愛知芸術センター

solo exhibition

「賀正 - マキシマムエディション」

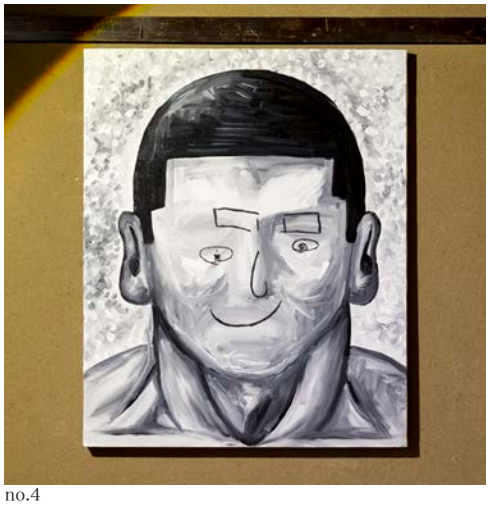
no.1

no.1-2

no.1《鯛蕎麦裏表浮彫：表》2017
no.1-2《鯛蕎麦裏表浮彫：裏》
no.2《鏡餅碑》
no.3《犬銅版》
no.4《福男笑絵画》
no.5《鶴亀石》
no.6《初夢木版》
no.7《御神籤棒》
no.8《発泡恵比寿》
素材：大理石、御影石、紙、インク、油彩、
ライムストーン、木材、足場板、シール、
発泡スチロール
期間：2017.12.26 - 2018.1.9
会場：vou

no.2

no.3

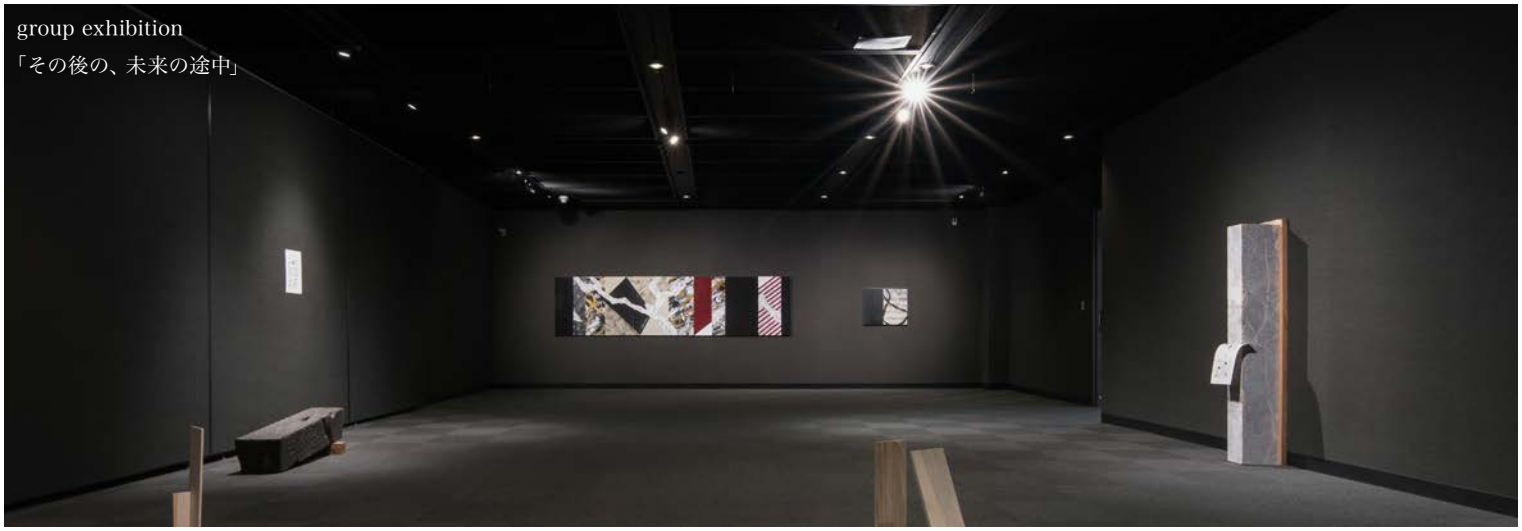

no.4

no.5

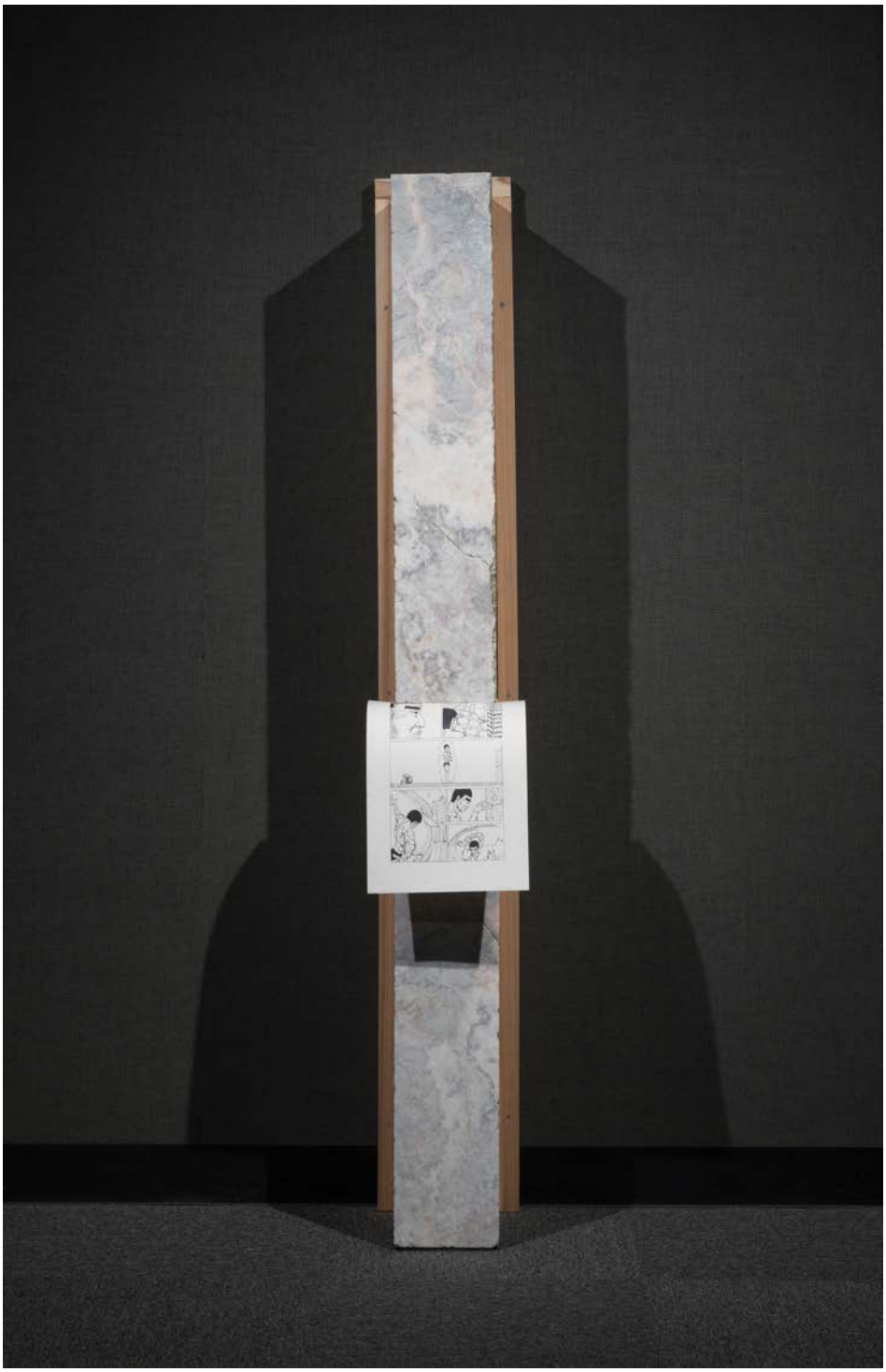
no.6

no.7

no.8

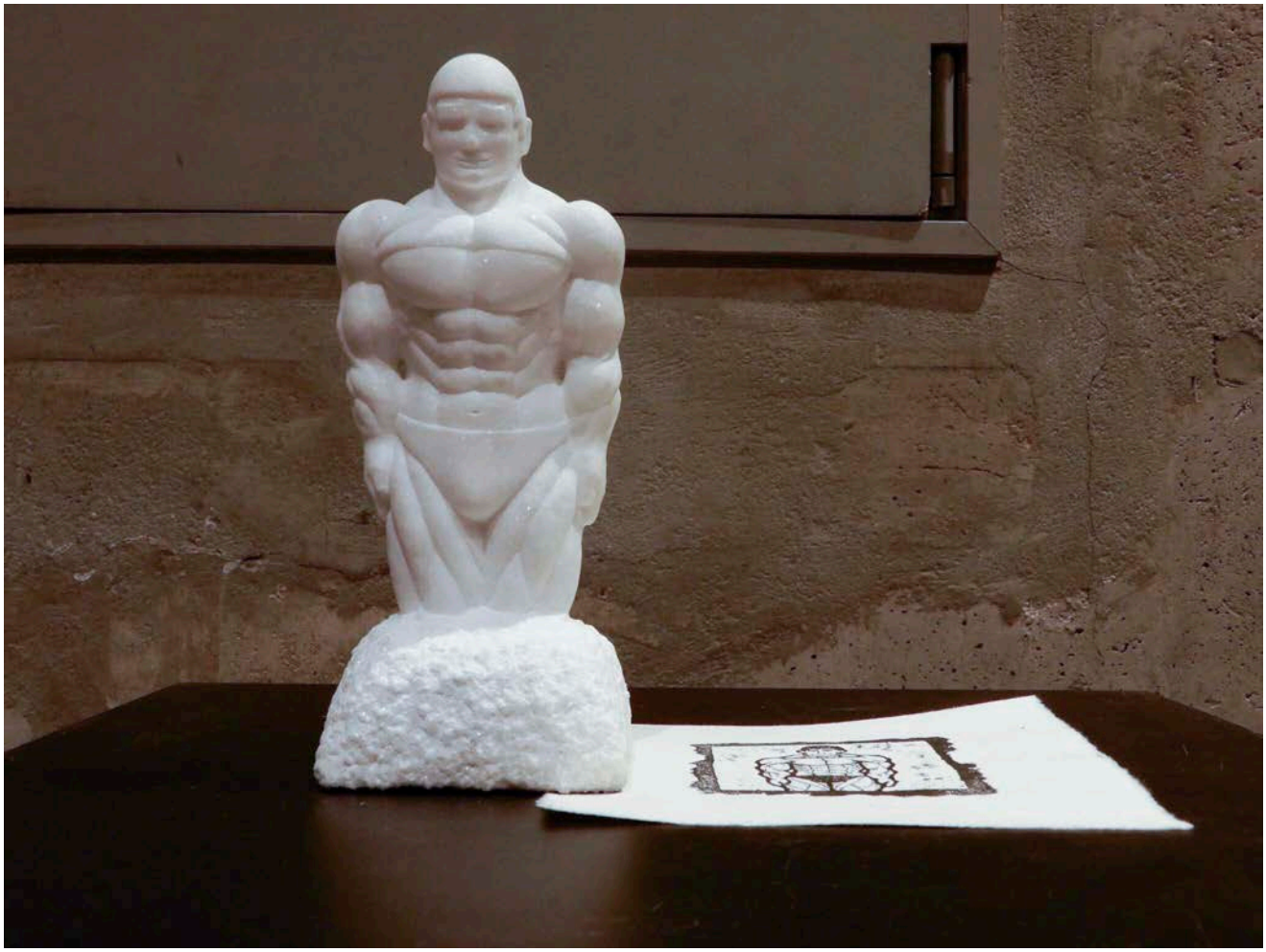


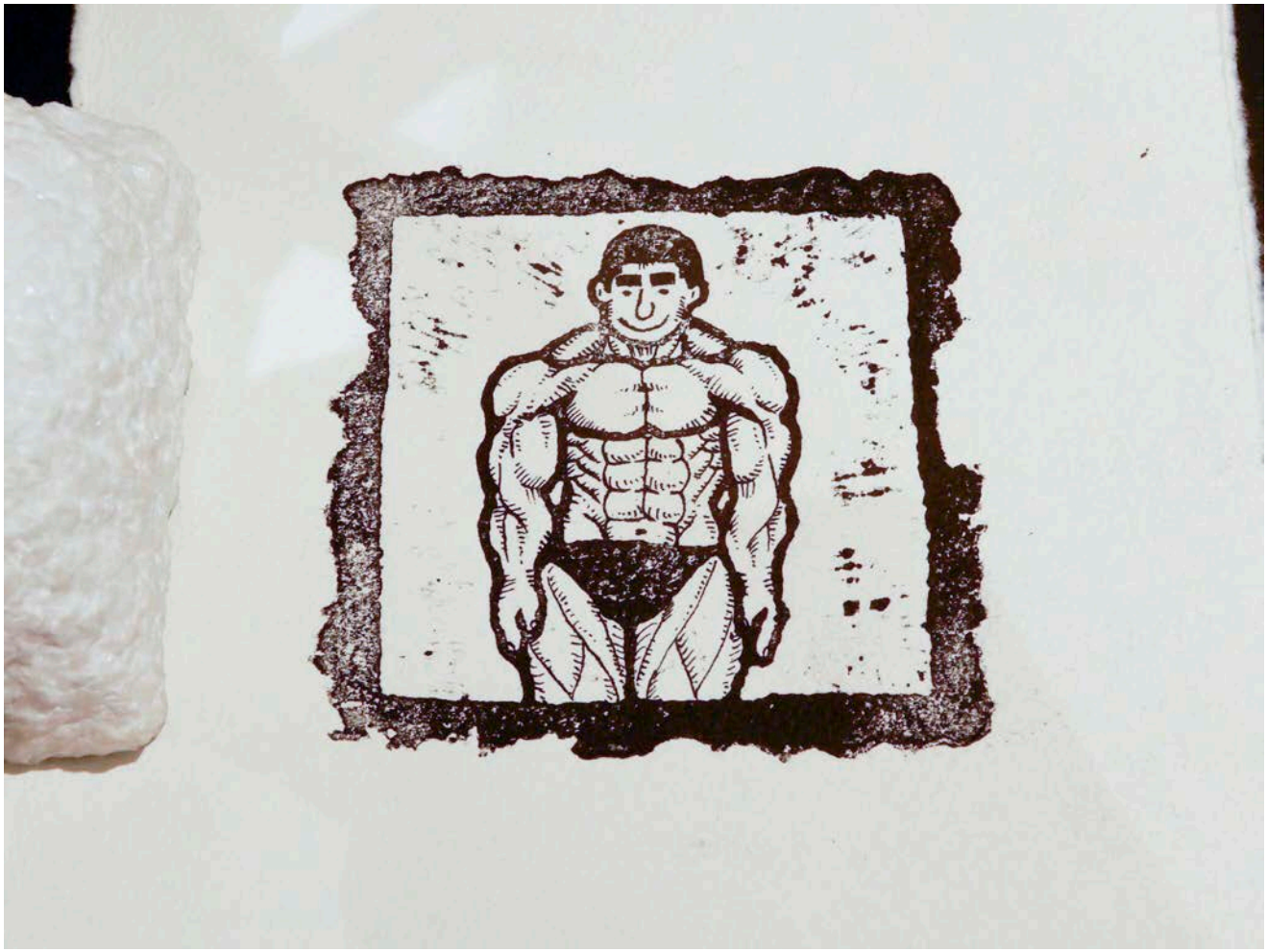
《sculptor sculputre》他 .2017
素材：大理石、御影石、マンガ、材木
期間：2017.12.5 - 12.22
会場：京都工芸繊維大学美術工芸資料館 2 階



主催：京都工芸繊維大学、京都工芸繊維大学美術工芸資料館
制作：京都工芸繊維大学美術工芸資料館
文化庁委託事業「平成 29 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

《upright sculputre》2017
素材：大理石、紙、インク
期間：2017.11.21 - 11.26
会場：gallery maronie

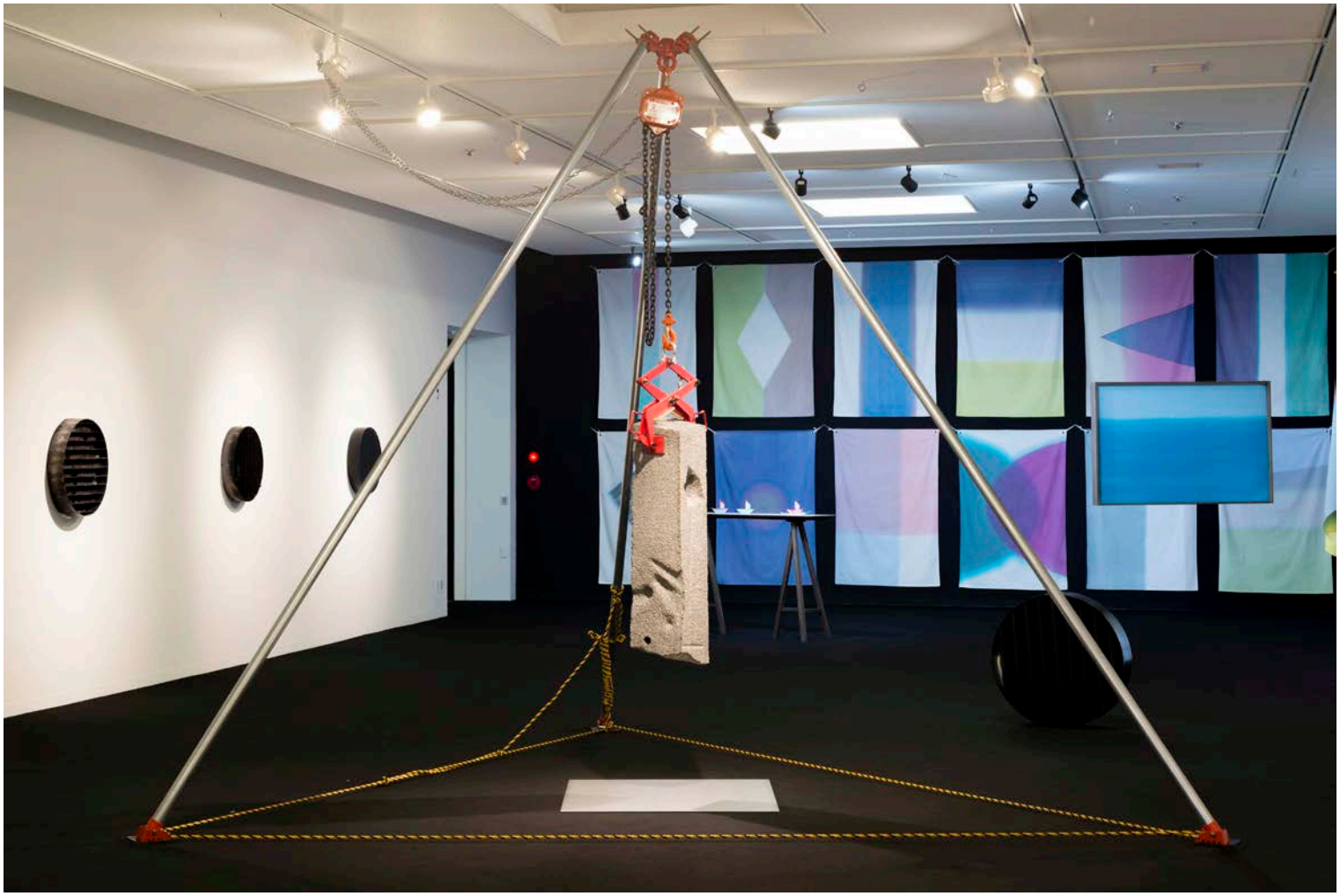




group exhibition

未来の途中プロジェクト 未来の途中の、途中の部分

Still on the Way to the Future



《コリュコス》2017

素材：御影石

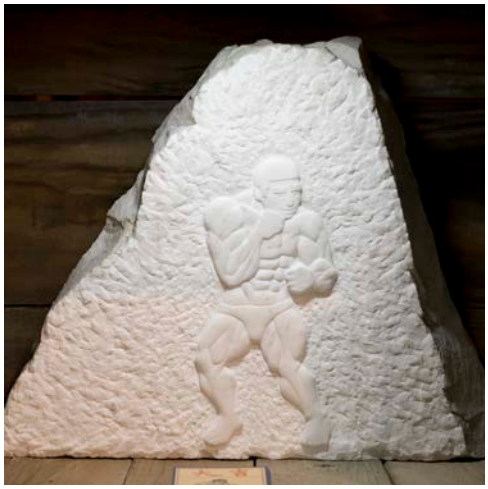
期間：2017.1.1.28-2.12

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

主催：文化庁、京都工芸繊維大学、京都工芸繊維大学美術工芸資料館
制作：京都工芸繊維大学美術工芸資料館
文化庁委託事業「平成 28 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

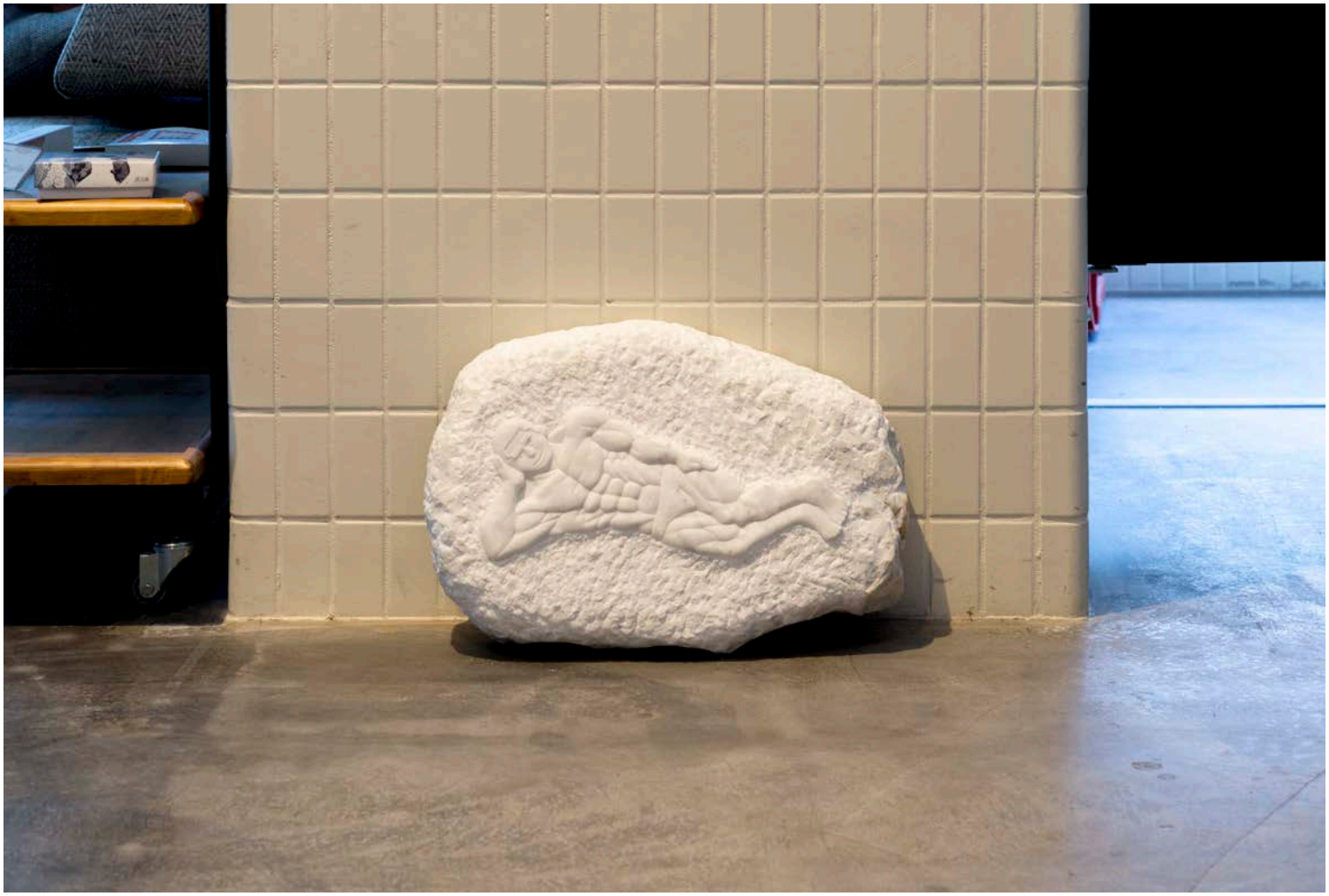
solo exhibition
「ハツ MODE」

《ハツ MODE》2017
素材：大理石、材木、鉄、シール
期間：2017.1.6-1.17
会場：vou



ART WORK

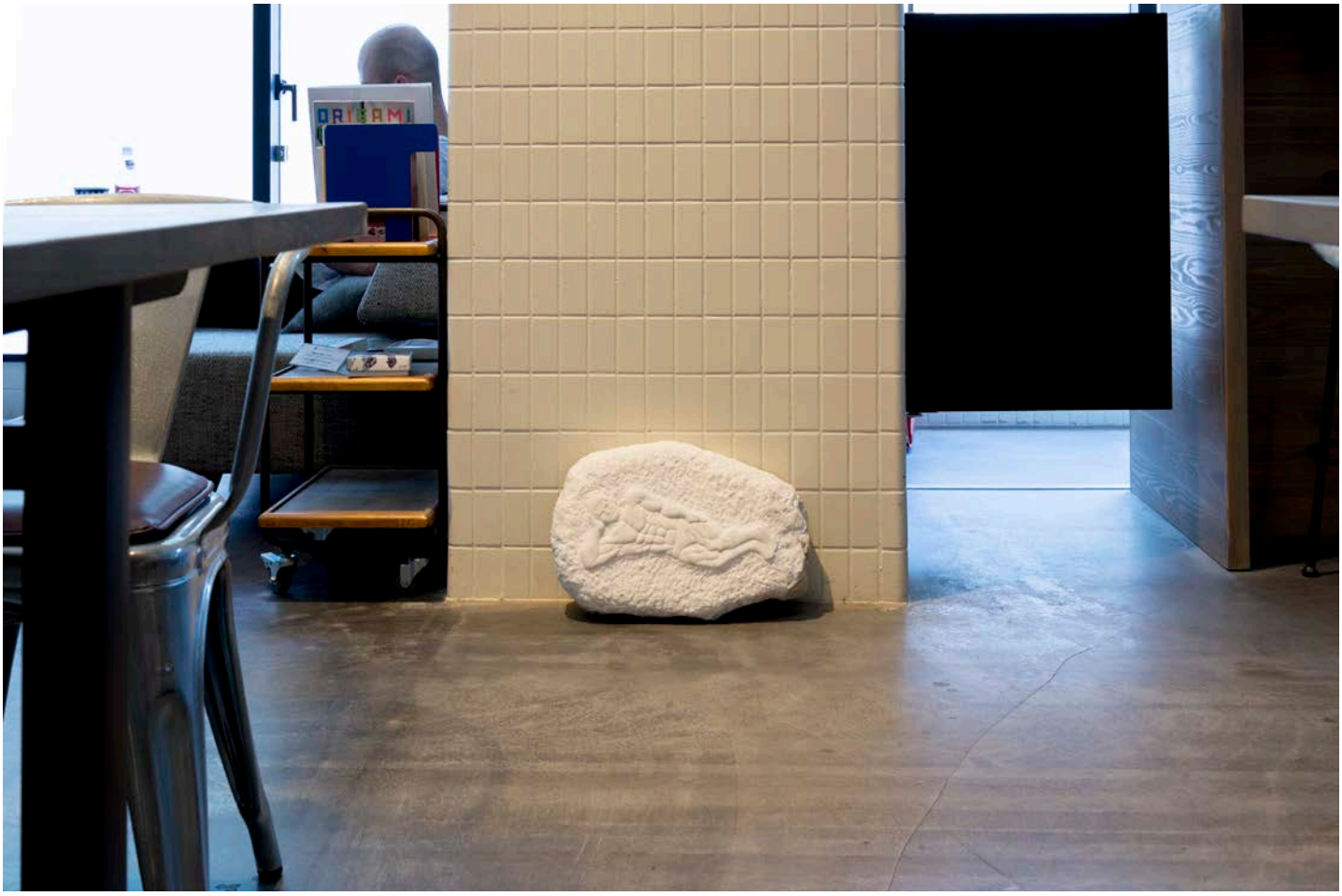
HOTEL ANTE ROOM KYOTO

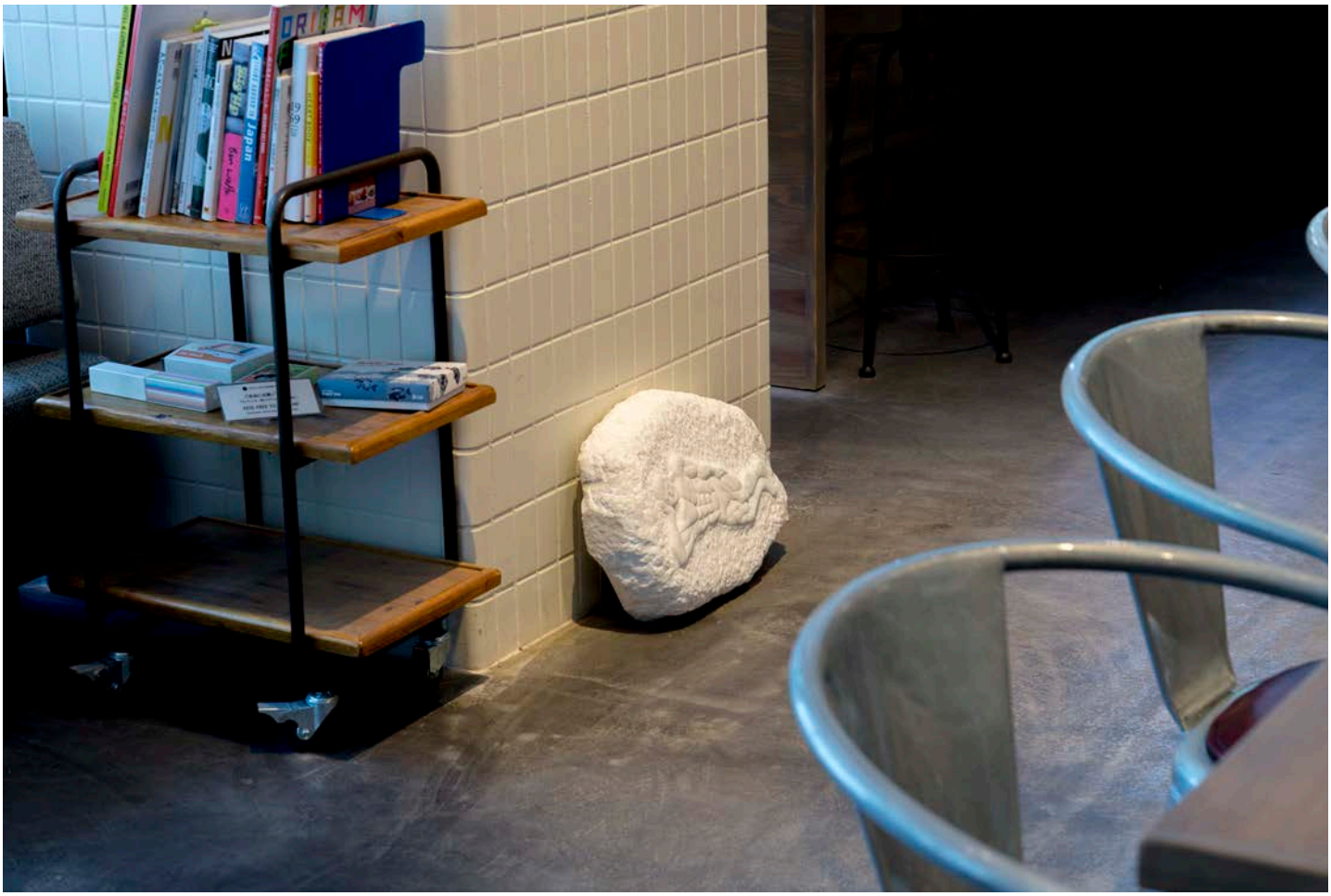


《nirvana》2016

素材：大理石

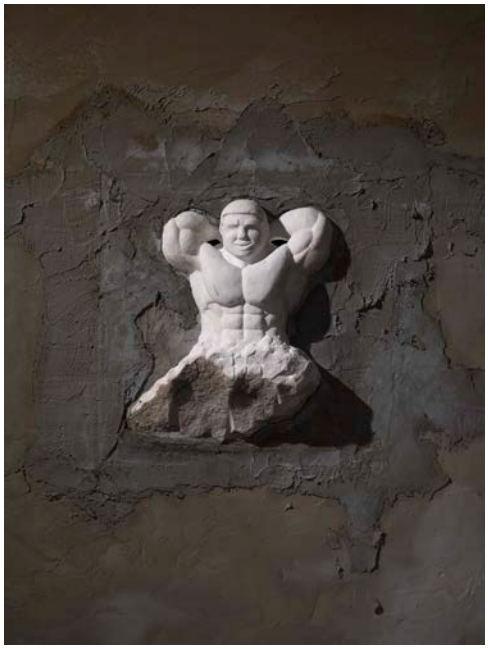
会場：HOTEL ANTEROOM KYOTO 常設


ORIGAMI


ORIGAMI

group exhibition
未来の途中のリズム－美術・工芸・デザインの新鋭 10 人展
Rhythm on the Way to the Future: 10 Newcomers of Art, Craft and Design

《bodybuilding sculputre》2016
素材：大理石、モルタル、材木
期間：2016.1.12-2.27
会場：京都工芸繊維大学美術工芸資料館 2 階



主催：文化庁、京都工芸繊維大学、京都工芸繊維大学美術工芸資料館
制作：京都工芸繊維大学美術工芸資料館
文化庁委託事業「平成 26 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

小笠原周 | shu ogasawara
1985 年兵庫県尼崎生まれ
2008 年京都造形芸術大 学彫刻コース卒業
2014 年、共同アトリエ山中スープレックスを立ち上げる。
マンガ的思考から石彫を中心とした作品を制作している。

| 個展
2022
「 剛体術」hop ART GALLERY/ 大阪
2021
「鈍牛 2021」VOU ／京都
2020
「Assemblage」VOU ／京都
2019
「小笠原周凱旋 EXHIBITION 尼崎の伝説の彫刻」尼崎城址公園、尼崎観光案内所／兵庫
「Hard Impact」VOU ／京都
2018
「賀正 - マキシマムエディション」VOU ／京都
2017
「ハツ MODE 」VOU ／京都

| 受賞
2018
「ゲンビどこでも企画公募 2018 展」五十嵐太郎賞
第 1 回尼崎市文化未来奨励賞

｜グループ展
2021
「血の塩／ Salt of the Blood」LEE SAYA/ 東京
「対馬アートファンタジア 2020-21 」対馬各所 / 長崎
「余の光 / Light of My World」旧銀鈴ビル / 京都
2020
「類比の鑑／ The Analogical Mirrors」山中 suplex ／滋賀
「OBJECT」HOTEL ANTEROOM KYOTO Gallely9.5 ／京都
2019
「山中 suplex のみんなと尼崎にいるあなた」あまらぶアートラボ／兵庫
「二つの部屋三つのケース」京都芸術センター／京都
「かみこあにプロジェクト 2019」旧沖田面小学校　八木沢集落／秋田
「Tokyo Independent2019」東京藝術大学大学美術館　陳列館 1・2 階／東京
2018
「ゲンビどこでも企画公募 2018 展」広島市現代美術館／広島
「KYOTO ARTLOUNGE」長楽館／京都
「チョウコク - 論」Finch Arts ／京都
「棒に贈」VOU ／京都
「アーツチャレンジ 2018」愛知芸術文化センター／愛知
2017
「その後の、未来の途中」京都工芸繊維大学美術工芸資料館／京都
「USE10_Uryuyama Sculptors Exhibition 10」gallery maronie ／京都
「未来の途中、途中の部分」京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA ／京都
2016
「未来の途中のリズムー美術・工芸・デザインの新鋭 10 人展」京都工芸繊維大学美術工芸資料館／京都
2015
「のせでんアートライン妙見の森 2015」妙見の森ふれあい広場／兵庫
2014
「京都銭湯芸術祭 2014」京都市内８銭湯／京都
「Kyoto Current2014」京都市美術館 別館／京都
2013
「豊島 MEETING ART in 片山邸」豊島／香川
「のせでんアートライン妙見の森 2013」能勢電鉄各駅／兵庫
2012
「ヒロシマオー ヒロシマフクシマ」旧日本銀行／広島
「西宮船坂ビエ ンナーレ 2012」旧船坂小学校 ／兵庫
2011
「AMA-Art Meets Amagasaki」旧尼崎警察署／兵庫
2009
『広島アートプロジェクト 2009「いざ、船内探険！吉宝丸」』吉島／広島